

就労継続支援B型事業所 すずかけ

1 基本方針

地域で暮らす障がいのある方が、地域の中でいつまでも自立した日常生活を営むことができるよう、一人ひとりの障がいの状況に応じた生産活動の提供と個別支援を行うことで、利用者の労働意欲の高揚を図るとともに、より高い工賃が支給できるよう努める。

2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

(1) 入所者状況

利用人数		前年度末利用者数	令和3年度中の入退所状況										利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
			入所人員	退所人員	退所理由別										
					地域移行		家庭復帰	施設移管	死亡	就職	サービス変更	他			
区分	定員	GH	アパ-ト等												
継続B型	38	37	2	2	0	0	0	3	0	0	1	1	7,234	79.0%	37
2年度 継続B型	38	39	2	4	0	0	0	3	0	0	0	1	7,602	83.0%	37

(2) 障害支援区分

就労継続支援B型

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	7	1	5	2	6	2	0	23
女性	1	0	1	6	3	3	0	14
計	8	1	6	8	9	5	0	37

3 事業の実施状況

(1) 商品開発、販路拡大等による収入増と工賃の向上

ア 印刷事業については、昨年度に引き続き利用者1名の配置となった。

職員の業務習熟度が増大したことで、堅調な受注となった。

受注内容は、鳥取県手話パフォーマンス甲子園や法人50周年記念グッズなどの大口受注のほか、個人の小口受注であった。

冬季閑散期の対策として、熱転写プリントの技術を新規に導入し、広報紙、HP等で営業を行った。

検討課題である伏野つばさ園への印刷事業の譲渡については、現状では利用者の確保が難しい。伏野つばさ園開所後2～3年後に再度検討したい。

イ 食品加工事業については、年度末に大口の継続契約を受注し、来年度の収入増を期待している。受注内容は、板わかめの委託販売で、大山まきばみるくの里との契約が鳥取県障害者就労事業振興センターの協力で実現した。

新型コロナウイルスの流行でイベント販売への参加が減少したが、上記センターの斡旋により外部へ注文販売の機会を多数確保した。

内容は、県庁や遊技業協同組合への加工食品セットの販売だった。販売用パッケージのデザインの企画提案も行い、印刷事業への収入にも反映できた。

HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の必要性を受け、関連する研修への参加を推進した。また、事業所独自の手引書による衛生管理計画に基づいて商品の安心安全に努めた。

ウ 受託事業については、利用者の特性に合わせて治具の改良を行い、作業効率の向上に努めた。また、アセスメントに沿った見極めを行い、適正な作業種類の選定に努めた。

職員の退職で職員配置が不安定な状況が続いた。また利用者の高齢化からくる体調不良による欠勤等も重なり作業実績が安定せず収入減につながった。

エ 平均工賃について、事業計画13,000円に対し、実績17,000円であった。

(2) 障がい特性に合わせた支援と職能評価

ア 自閉症、行動障がい等の障がい特性に配慮し、構造化を図ることで落ち着いて働ける作業環境や分かりやすい手順書の整備に努めた。

イ 利用者の職能評価は3か月毎に実施し、客観的な評価をして作業班の中で本人へフィード

バックし作業意欲や能力の伸張につながるよう働きかけた。また、個別支援計画時のアセスメントと職能評価がリンクしていないものもあり見直しを図った。

ウ 個別支援計画作成時、本人、保護者から要望を聞き取り、作業状況を確認し作業内容の見直しや本人の希望に即してステップアップできるように計画の見直しを行った。

(3) 地域に密着した農福連携と地産地消

ア 販売について、「道の駅西いなば気楽里」「鹿野おもしろ市場」「地場産プラザわったいな」「道の駅かわはら」で加工食品を委託販売した。

「道の駅神話の里白うさぎ」での対面販売がTVで紹介され、商品アピールにつながった。

しかし、上記以外の対面販売は、新型コロナの影響でイベント自体の中止が相次いだ。

米子で開催予定だった「ごきげんマルシェ」の中止を受けて、米子地区の新聞折込チラシで商品をPR（QRコードからYouTubeの商品紹介動画へ誘導）し、販売促進に努めた。

イ 原材料の調達について、海産物（わかめ、あかもく）は、酒津及び泊漁協から順調に仕入れることができた。加工品の乾燥あかもくは、法人内施設及び市内給食センター等に納入している。

農産物のうち大根は、生産者の紹介で仕入先を確保した。加工品の切干大根は、法人内施設のほか、旧気高郡内の保育所にも納入している。

ウ 新規事業で、鹿野心のふるさと推進委員会から、鹿野町のPRの一環として、蓮の葉の乾燥加工の相談があった。次年度の検討としたい。

(4) 利用者の安定確保

ア 利用者ニーズに応えるため、体験利用の受け入れ体制を整備した。

在宅の障がい者1名の見学を実施した。利用に前向きではあったが、環境に慣れることが難しいとの理由で利用契約には至らなかった。

相談支援事業所からの紹介により、在宅の障がい者1名が2日間体験利用し、10月に新規契約となった。

既存利用者の利用促進に努めたが、高齢化による長期入院及び長期の利用中断、また新型コロナ感染防止による利用中止も重なり、稼働率実績は79%で、目標85%を下回った。

イ 白兔養護学校からの職場体験実習生1名を10日間受け入れた。今後も実習を受け入れ、卒業後の利用につなげたい。

(5) 地域福祉への貢献

ア 鳥取市西地域つながる会に参加し、保健師等から情報を収集している。今年度は見学や体験実習にはつながらなかった。

イ 障がい理解の啓発を目的として、小中学校及び地域自治会との交流を予定したが、新型コロナの影響ですべて中止となった。

ウ 勝谷地区公民館活動でコスモスの苗植えに参加し、地域の環境美化に協力した。

エ 地域における生活困窮者支援の充実（就労体験場所の提供）については、新型コロナの影響もあり、他機関との協働等を行うことができなかった。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
社会福祉士実習	12月	1人	4人
計		1人	4人

(2) ボランティアの受入実績

実績なし

5 就労支援事業の実績

作業班	3年度目標額	実績額	達成率	作業の内容
園芸作業班	600,000円	600,000円	100.0%	園芸作業の受託
清掃作業班	1,309,000円	1,218,409円	93.1%	公共庁舎等の清掃作業
部品組立班	2,513,000円	1,361,092円	54.2%	弱電機器部品の組立作業等の受託
自主製品班	11,030,000円	10,634,437円	96.4%	海産物加工、印刷製品等作成販売
計	15,452,000円	13,813,938円	89.4%	